

「住友化学レポート2023」発行に当たって

統合報告書「住友化学レポート」は、株主・投資家をはじめとする幅広いステークホルダーの皆さまに、当社の価値創造ストーリーを分かりやすくお伝えすることを目指し、当社の事業の強みや戦略、業績、コーポレート・ガバナンス体制などを総合的にまとめています。2023年度は、「経営として取り組む重要課題」に沿った構成はそのままに、イノベーションの推進についての解説を充実させるとともに、新たに就任した社外取締役からのメッセージを記載しました。

現在、当社を取り巻く事業環境は、想定を上回る逆風にさらされ、足元の業績は成長への踊り場を迎えています。しかし、今こそ総合化学の総力を結集し、業績を早期に成長軌道へ回帰させる考えです。当社にはそれが可能であること、そしてその先にはさらなる価値を創造する未来があることを、この住友化学レポートでお伝えできれば幸いです。

住友化学の 3つのレポート



◆ 住友化学レポート

当社事業の強みや戦略、課題、業績などを総合的にまとめた統合報告書です。株主・投資家をはじめとする幅広いステークホルダーの皆さまに、当社の価値創造ストーリーをわかりやすく伝えることを目指しています。



◆ Investors' Handbook

当社の幅広い事業・製品について、市場動向やシェアなどの情報を交えながら詳細に解説しています。



◆ サステナビリティデータブック

環境・社会・ガバナンスの側面から、当社の詳細なサステナビリティ情報を網羅的に掲載しています。(Web公開のみ)



発行に関して

見通しに関する注意事項

本住友化学レポートに記載されている当社の現在の計画、戦略、業績予想などの、既存の事実ではない内容は、将来に関する見通しであり、リスクや不確定要因を含んでいます。実績がこれらの内容と乖離する要因となり得るものとして、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場における当社の製品に対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、厳しい競争市場において当社が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。ただし、要因はこれらに限定されるものではありません。

本資料での財務数値について

住友化学グループは2018年3月期より、従来の日本基準に代えてIFRSを適用しており、2017年3月期の数値をIFRSに組み替えて比較分析を行っています。

価値協創ガイダンス

経済産業省が策定した「価値協創ガイダンス」は、企業と投資家を繋ぐ「共通言語」であり、企業が投資家に伝えるべき情報を体系的・統合的に整理し、情報開示や投資家との対話の質を高めるための手引きです。本レポートでは、主に各事業部門の価値創造モデルにて本ガイダンスを参考にしています。



CONTENTS

メガトレンド	1
住友化学レポート2023発行に当たって	5

はじめに

会長メッセージ	7
トップメッセージ	9

住友化学とは

企業理念	15
住友化学の歴史	17
住友化学のコア・コンピタンス	21
価値創造フロー	23
住友化学の5つの事業領域	25
経営として取り組む重要課題とKPI	27
財務ハイライト	29

住友化学の戦略

2022-2024年度 中期経営計画	31
財務戦略	33
IR活動	35

経営として取り組む重要課題

社会価値創出に 関する重要課題	環境分野への貢献	37
	・気候変動の緩和と適応	
	・資源循環への貢献	
	・自然資本の持続可能な利用	
	食糧分野への貢献	46
	・持続可能な農業の推進	
	ヘルスケア分野への貢献	47
	ICT関連分野への貢献	48
将来の価値創造に 向けた重要課題	イノベーションの推進	49
	DXによる競争力強化	53
	人材	55
	DE&I、育成・成長、健康	
事業継続の ための基盤	労働安全衛生・保安防災	57
	製品安全・品質保証	58
	人権尊重	59
	サイバーセキュリティ	60
	コンプライアンス	61
	腐敗防止	62

事業戦略

エッセンシャルケミカルズ	63
エネルギー・機能材料	67
情報電子化学	71
健康・農業関連事業	75
医薬品	79

マネジメント

役員一覧	83
社外取締役メッセージ	87
コーポレート・ガバナンス	89

データ編

会社・投資家情報	99
長期データハイライト	101
連結財務諸表	103